

共働き世帯における母親の ワーク・ライフ・バランスと児の社会適応との関連

ホソカワ リクヤ カツラ トシキ タイラ カズヤ
細川 陸也*1 桂 敏樹*3*4 平 和也*2

目的 近年、子育て世帯における共働きの割合は増加傾向にある。しかし、共働き世帯を支える社会システムの整備はいまだ不十分であり、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進は重要な課題となっている。親のワーク・ライフ・バランスは、子どものメンタルヘルスに影響を及ぼす可能性がある。本研究は、共働き世帯における母親のワーク・ライフ・バランスと学童期の児の社会適応との関連を明らかにすることを目的とした。

方法 2019年10～12月に、愛知県内の小学5年生（10-11歳児）とその養育者1,414名を対象に自記式質問紙調査を実施した。主な調査項目は、親の雇用形態、家庭の世帯収入等とし、ワーク・ライフ・バランス尺度（Survey Work-Home Interaction-NijmeGen）、児の社会適応（Child Social Preference Scale）尺度などを用いた。目的変数を児の社会適応、説明変数を母親のワーク・ライフ・バランス、調整変数を性別、家族構成、親の雇用形態、家庭の世帯収入として重回帰分析を行った。

結果 有効回答の得られた709名のうち、基準を満たす共働き世帯の児443名を分析対象とした。分析の結果、仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほど児の社会不適応のリスクが高くなる（シャイネス： $\beta = 0.180$, $p < 0.001$, 社会的無関心： $\beta = 0.149$, $p = 0.003$ ）一方、仕事から家庭へのポジティブな影響が大きいほど社会不適応のリスクが低くなる（シャイネス： $\beta = -0.130$, $p = 0.008$ ）傾向がみられた。

結論 母親のワーク・ライフ・バランスは、ネガティブな面でもポジティブな面でも、児の社会適応に関連していることが示唆された。仕事と子育てを両立するための積極的な取り組みは、児の社会適応にとって重要であると考えられる。

キーワード 共働き世帯、母親、ワーク・ライフ・バランス、学童期、社会適応

I 緒 言

近年、子育て期における共働き世帯の割合は増加傾向にある¹⁾。しかし、男性の育児休業取得率や家事・育児に費やす時間は低水準であり、女性が家事・育児の多くを担っている現状がある¹⁾²⁾。また、2020年の待機児童数は12,439人であり子育て支援に課題を抱える地域は多く、

共働き世帯を支える社会システムの構築はいまだ十分とは言えない³⁾。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス：Work-life balance）の推進は重要な課題となっている。ワーク・ライフ・バランスは、親の抑うつやストレスなどのメンタルヘルスとの関連が指摘されており、子どもの発達や生活習慣に影響を及ぼす可能性がある⁴⁾⁻⁷⁾。しかし、親のワーク・ライフ・バラ

* 1 京都大学大学院医学研究科講師 * 2 同助教 * 3 京都大学名誉教授

* 4 明治国際医療大学看護学部学部長/教授

ンスと子どもの社会適応との関係は十分に明らかにされていない。

子どもの社会適応に関する行動の重要な側面として、シャイネス (Shyness) と社会的無関心 (Social disinterest) がある⁸⁾⁹⁾。シャイネスは他者に関心を持ちながらも不安や恐れのために他者への接近と回避に葛藤が生じる状態、社会的無関心は他者への関心自体が欠けており接近と回避がともに低い状態である。シャイネス・社会的無関心が高いほど、不登校や引きこもりなどの社会不適応のリスクが高くなる⁸⁾⁹⁾。

近年の共働き世帯の増加は女性の就業率の上昇が背景にあるが、先述のとおり、男性の育児休業取得率や家事・育児に費やす時間の現状を踏まえると、仕事と子育ての両立で困難感を抱えているのは女性側に多いことが推測される¹⁾²⁾。そこで、本研究は、共働き世帯における母親のワーク・ライフ・バランスと学童期の児の社会適応 (シャイネス・社会的無関心) との関連を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ 方 法

(1) 対象者

2019年10～12月に愛知県内の小学5年生(10-11歳)とその養育者を対象 (n=1,414) に、自記式質問調査を実施した。配布した質問紙のうち、709名の有効回答が得られた。本研究では、共働き世帯の母親のワーク・ライフ・バランスと児の社会適応との関連を検討するため、発達障害の児、共働き世帯の母親以外が回答した児266名を除外し、443名を分析対象とした。

(2) 調査項目

1) ワーク・ライフ・バランス

母親のワーク・ライフ・バランスは、日本語版ワーク・ライフ・バランス尺度 (Japanese version of the Survey Work-Home Interaction-NijmeGen: SWING-J) を使用した¹⁰⁾¹¹⁾。本尺度は、ワーク・ライフ・バランスを、仕事と家庭が双方向 (仕事→家庭、家庭→仕事) かつポジティブ・ネガティブの4側面で評価する

尺度で、それぞれ仕事→家庭ネガティブ流出 (Work-family negative spillover): 8項目、家庭→仕事ネガティブ流出 (Family-work negative spillover): 4項目、仕事→家庭ポジティブ流出 (Work-family positive spillover): 5項目、家庭→仕事ポジティブ流出 (Family-work positive spillover): 5項目の下位尺度で構成されている。下位尺度を構成する設問項目は、0 (まったくない) から3 (いつもある) の4件法で回答する。本研究では、仕事から家庭への影響が児の行動にどのように関連しているのかを検討するため、仕事→家庭ネガティブ流出と仕事→家庭ポジティブ流出を用いた。各々の得点が高いほど、仕事から家庭へのネガティブな影響、仕事から家庭へのポジティブな影響が高いと評価する。

2) 社会適応

児の社会適応は、Child Social Preference Scale 日本語版を使用した⁸⁾⁹⁾。本尺度は、シャイネス: 7項目、社会的無関心: 4項目を、1 (全くあてはまらない) から5 (とてもあてはまる) の5件法で回答する。各々の得点が高いほど、シャイネス、社会的無関心が高いと評価する。

3) 対象属性

児の性別、家族構成、親の雇用形態、家庭の世帯収入について尋ねた。本分析では、児の性別を男児/女児、きょうだいを無/有、母親・父親の雇用形態を母親・父親ともに非正規/母親が正規かつ父親が非正規/母親が非正規かつ父親が正規/母親・父親ともに正規、家庭の世帯収入を300万円未満/300-600万円未満/600-900万円未満/900万円以上に分類した。

(3) 統計解析

対象属性と社会適応との関連、雇用形態・世帯収入とワーク・ライフ・バランスとの関連を検討するため、t検定、一元配置分散分析を用いて分析した。次に、母親のワーク・ライフ・バランスと児の社会適応との関連を検討するため、目的変数に社会適応 (シャイネス、社会的無関心)、説明変数に各々のワーク・ライフ・

バランス（仕事から家庭へのネガティブな影響、仕事から家庭へのポジティブな影響）としたmodell, 説明変数に両側面のワーク・ライフ・バランス, 調整変数に児の性別, 家族構成, 親の雇用形態, 家庭の世帯収入としたmodel2に

ついて, 重回帰分析を実施した。統計解析は, SPSSバージョン27.0を用いて行い, 有意水準は5%とした。

(4) 倫理的配慮

本研究は, 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則り, 京都大学大学院医学研究科・医学部および医学部附属病院の医の倫理委員会によるにおいて承認を得て実施した(承認年月日.2016.6.7.E2322)。研究の趣旨等を文書により対象者に説明し, 同意の得られた方から協力をいただいた。

表1 対象属性および児の社会適応行動

	n (名)	%	シャイネス			社会的無関心		
			平均	標準偏差	p	平均	標準偏差	p
児の性別								
男児	216	48.8	14.3	5.2	0.3	11.3	2.8	0.6
女児	227	51.2	14.8	4.7		11.1	2.8	
家族構成								
きょうだい 無	60	13.5	15.3	5.4	0.2	11.7	2.4	0.1
きょうだい 有	383	86.5	14.4	4.9		11.1	2.9	
親の雇用形態								
母親：非正規雇用, 父親：非正規雇用	43	9.7	15.1	4.3	0.8	10.8	3.1	0.4
母親：正規雇用, 父親：非正規雇用	20	4.5	15.0	6.0		11.8	2.3	
母親：非正規雇用, 父親：正規雇用	251	56.7	14.6	5.0		11.3	2.8	
母親：正規雇用, 父親：正規雇用	129	29.1	14.2	5.1		11.0	2.9	
家庭の世帯収入								
300万円未満	24	5.6	15.8	5.2	0.6	11.0	3.1	0.8
300-600万円未満	181	42.1	14.5	5.0		11.2	2.8	
600-900万円未満	136	31.6	14.8	4.8		11.4	2.7	
900万円以上	89	20.7	14.3	5.1		11.1	2.8	

注 無回答を除く。

III 結果

(1) 対象属性および児の社会適応 (表1)

対象属性として児の性別, 家族構成, 親の雇用形態, 家庭の世帯収入の単純集計結果を表1に示した。また, 対象属性と児の社会適応(シャイネス, 社会的無関心)との関連をt検定, 一元配置分散分析を実施したところ, すべての組み合わせにおいて有意な関連はみられなかった。

(2) 雇用形態・世帯収入とワーク・ライフ・バランス (表2)

親の雇用形態・家庭の世帯収入とワーク・ライフ・バランス(仕

表2 雇用形態・世帯収入と母親のワーク・ライフ・バランス

	仕事から家庭へのネガティブな影響			仕事から家庭へのポジティブな影響		
	平均	標準偏差	p	平均	標準偏差	p
親の雇用形態						
母親：非正規雇用, 父親：非正規雇用	6.10	5.04	0.00***	7.27	3.79	0.70
母親：正規雇用, 父親：非正規雇用	5.80	3.75		6.55	3.83	
母親：非正規雇用, 父親：正規雇用	3.64	3.47		6.84	3.73	
母親：正規雇用, 父親：正規雇用	6.63	4.58		7.21	3.30	
家庭の世帯収入						
300万円未満	4.83	3.92	0.22	6.74	3.33	0.97
300-600万円未満	4.61	4.26		6.94	3.76	
600-900万円未満	4.69	3.87		6.88	3.68	
900万円以上	5.72	4.69		7.08	3.28	

注 ***p < 0.001

表3 母親のワーク・ライフ・バランスと児の社会適応行動との関連

	Model1					Model2				
	B	SE	β	p	調整済みR ²	B	SE	β	p	調整済みR ²
シャイネス										
仕事から家庭へのネガティブな影響	0.221	0.057	0.187	<0.001	0.035	0.211	0.058	0.180	<0.001	0.057
仕事から家庭へのポジティブな影響	-0.199	0.067	-0.144	0.003	0.021	-0.180	0.068	-0.130	0.008	
社会的無関心										
仕事から家庭へのネガティブな影響	0.104	0.032	0.156	0.001	0.024	0.097	0.032	0.149	0.003	0.040
仕事から家庭へのポジティブな影響	-0.082	0.038	-0.104	0.032	0.011	-0.069	0.038	-0.090	0.070	

注 1) Model1: 説明変数を各々投入。Model2: 説明変数を同時投入。児の性別, 家族構成, 親の雇用形態, 家庭の世帯収入で調整。
2) B: 回帰係数, SE: 標準誤差, β : 標準化回帰係数

事から家庭へのネガティブな影響・仕事から家庭へのポジティブな影響)との関連を検討したところ、母親・父親ともに非正規雇用、母親・父親ともに正規雇用の家庭の母親は、仕事から家庭へのネガティブな影響が高い傾向がみられた。一方、家庭の世帯収入とワーク・ライフ・バランスとの間には有意な関連はみられなかった。

(3) 母親のワーク・ライフ・バランスと児の社会適応との関連(表3)

母親のワーク・ライフ・バランスと児のシャイネスとの関連を検討したところ、調整のないmodelでは仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほど児のシャイネスが高くなる($\beta = 0.187$, $p < 0.001$)一方、仕事から家庭へのポジティブな影響が大きいほどシャイネスが低くなる($\beta = -0.144$, $p = 0.003$)傾向がみられた。さらに、児の性別、家族構成、親の雇用形態、家庭の世帯収入を調整したModel2においても、仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほどシャイネスが高くなる($\beta = 0.180$, $p < 0.001$)一方、仕事から家庭へのポジティブな影響が大きいほどシャイネスが低くなる($\beta = -0.130$, $p = 0.008$)傾向がみられた。

また、社会的無関心との関連を検討したところ、仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほど児の社会的無関心が高くなる($\beta = 0.156$, $p = 0.001$)一方、仕事から家庭へのポジティブな影響が大きいほど社会的無関心が低くなる($\beta = -0.104$, $p = 0.032$)傾向がみられた。さらに、Model2においては、仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほど社会的無関心が高くなる($\beta = 0.149$, $p = 0.003$)傾向がみられた。

IV 考 察

本研究では、母親のワーク・ライフ・バランスと児の社会適応との関連を検討したところ、親の雇用形態などを調整しても、仕事から家庭へのネガティブな影響が大きいほど児の社会不

適応のリスク(シャイネス・社会的無関心)が高くなる一方、仕事から家庭へのポジティブな影響が大きいほど社会不適応のリスク(シャイネス)が低くなる傾向が示された。母親のワーク・ライフ・バランスは、ネガティブな面でもポジティブな面でも、児の社会適応に影響を及ぼしている可能性がある。

先行研究において、ワーク・ライフ・バランスの崩れは、生活の質(QOL)の低下、不安や抑うつ・ストレス・疲労の増加などとの関連が報告されている¹²⁾⁻¹⁶⁾。一方、ワーク・ライフ・バランスを保つことは、仕事の満足度や業績だけでなく、QOLの向上やメンタルヘルスの改善に関連し¹⁷⁾¹⁸⁾、母親のワーク・ライフ・バランスは、家族機能や養育態度を介して、児の行動に影響を及ぼしている可能性がある。

また、本研究では、母親・父親ともに非正規雇用、母親・父親ともに正規雇用の家庭の母親は、仕事から家庭へのネガティブな影響が高い傾向がみられた。母親・父親ともに非正規雇用の場合、経済的に生活が不安定であったり、また、母親・父親ともに正規雇用の場合、仕事の責任や勤務時間の負担の大きさから、ワーク・ライフ・バランスが崩れている可能性がある。しかし、雇用形態等による家庭のワーク・ライフ・バランスの違いはいまだ十分に検証されておらず、ハイリスクな家庭の特性を把握することは重要である。

V 結 語

共働き世帯における母親のワーク・ライフ・バランスは、学童期の児の社会適応につながっている可能性が示唆された。新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方は急速に変化しており、親の働き方と児の発達との関係、ハイリスクな家庭の特性を検証し、仕事と生活のバランスを整えるために積極的に取り組んでいくことは、児の発達にとって重要であると考えられる。

謝辞

調査にあたり、ご協力いただきました皆様に

心から感謝申し上げます。本研究は、科学研究費補助金・若手研究（19K19738）の一環として実施いたしました。また、本研究は、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

文 献

- 1) 内閣府. 男女共同参画白書. 2020. (https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/index.html) 2021.4.26.
- 2) 厚生労働省. 雇用均等基本調査. 2019. (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/71-r01.html>) 2021.4.26.
- 3) 厚生労働省. 保育所等関連状況取りまとめ. 2020. (<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000678692.pdf>) 2021.4.26.
- 4) Frone RM, Russell M, Barnes MG. Work-family conflict, gender, and health-related outcomes : A study of employed parents in two community samples. *J. Occup. Health Psychol.* 1996 ; 1 (1) : 57-69.
- 5) Clark SC. Work/family border theory : A new theory of work/family balance. *Hum. Relat.* 2000 ; 53 : 747-70.
- 6) Grzywacz JG, Bass BL. Work, family, and mental health : Testing different models of work-family fit. *J. Marriage Fam.* 2003 ; 65 (1) : 248-61.
- 7) Byron K. A meta-analytic review of work-family conflict and its antecedents. *Journal of vocational behavior.* 2005 ; 67 (2) : 169-98.
- 8) Coplan RJ, Prakash K, O'Neil K, et al. Do you "want" to play? Distinguishing between conflicted shyness and social disinterest in early childhood. *Developmental Psychology.* 2004. 40, 244-58.
- 9) 岡田涼, 谷伊織, 大西将史, 他. Child social preference scale日本語版の作成. *心理学研究.* 2012 ; 83 (1) : 44-50.
- 10) Geurts SAE, Taris TW, Kompier MAJ, et al. Work-home interaction from a work psychological perspective : Development and validation of a new questionnaire, the SWING. *Work & Stress.* 2005 ; 19 : 319-39.
- 11) Shimada K, Shimazu A, Geurts SAE, et al. Reliability and validity of the Japanese version of the Survey Work-Home Interaction-Nijmegen, the SWING (SWING-J) Community, *Work & Family.* 2018 ; 22 : 267-83.
- 12) Greenhaus JH, Collins KM, Shaw JD. The relation between work-family balance and quality of life. *J. Vocat. Behav.* 2003 ; 63 : 510-31.
- 13) Frone MR. Work-family conflict and employee psychiatric disorders : The national comorbidity survey. *J. App. Psychol.* 2000 ; 85 : 888-95.
- 14) Allen TD, Armstrong J. Further examination of the link between work-family conflict and physical health : The role of health-related behaviors. *Am. Behav. Sci.* 2005 ; 49 (9) : 1204-21.
- 15) Gröpel P, Kuhl J. Work-life balance and subjective well-being : The mediating role of need fulfillment. *Br. J. Psychol.* 2009 ; 100 : 365-75.
- 16) Allen DT, Herst LED, Bruck SC, et al. Consequences associated with work-to-family conflict : A review and agenda for future research. *J. Occup. Health Psychol.* 2000 ; 5 (2) : 278-308.
- 17) Sirgy MJ, Lee DJ. Work-life balance : An integrative review. *Appl. Res. Qual. Life* 2018 ; 13 : 229-54.
- 18) Pesonen AK, Raikkonen K, Heinonen K, et al. A transactional model of temperamental development : Evidence of a relationship between child temperament and maternal stress over five years. *Soc. Dev.* 2008 ; 17 : 326-40.